

令和 7 年芦田川水害タイムライン検討会 出水期振り返りワーキング

1. 芦田川水害タイムラインの検討経緯・本ワーキングの目的

(1) 芦田川水害タイムラインの目的・特徴

- 芦田川流域では、多機関連携における防災行動の見える化を目的とした水害タイムラインを作成し、2019年8月26日に公表
- 毎年度の見直しを踏まえ、課題の抽出や改善を実施

■芦田川水害タイムラインの特徴

- ①災害時、実務担当者は**先を見越した早め早めの行動**ができる。意思決定者は**不測の事態の対応に専念**できる
- ②**防災関係機関の責任の明確化、防災行動の抜け・漏れ・落ちの防止**が図れる（行動のチェックリストとして機能）
- ③防災関係機関の間に**顔の見える関係**を構築できる
- ④**災害対応の振り返り（検証）、改善**を容易に行うことができる

(2) 芦田川水害タイムラインの作成から今年度までの検討・運用

■ 芦田川水害タイムラインの検討経緯

R1.5.16 第1回検討会

- ・ 芦田川水害タイムライン作成の目的とメリット
- ・ 芦田川水害タイムラインのイメージ
- ・ **重要行動に関する多機関との連携ポイント** 等

R1.6.28 第2回検討会

- ・ 避難勧告着目型タイムラインとの違い
- ・ タイムラインにおけるレベル設定の考え方について
- ・ 試行版の内容確認・意見交換 等

R1.8.26

- ・ **芦田川水害タイムライン**（令和元年度版）を**作成・公表**

R2.2.5 第3回検討会

- ・ 令和元年度出水を踏まえたタイムラインの発動状況・振り返り
- ・ **ポータルサイト**の紹介 等

R3.2.10 令和2年出水期振り返りワーキング

- ・ 令和2年度出水を踏まえたタイムラインの発動状況・振り返り
- ・ 「早めの体制確立」、「多機関や機関内における情報共有」、「出水時対応における感染症対策についての意見交換」

R3.12.15 令和3年出水期振り返りワーキング

- ・ 令和3年度出水を踏まえたタイムラインの発動状況・振り返り
- ・ **前線性降雨時**のタイムライン発動（通知）タイミングの見直し 等

R5.1.12 令和4年出水期振り返りワーキング

- ・ 令和4年度出水を踏まえたタイムラインの発動状況・振り返り
- ・ **台風性降雨時**のタイムライン発動（通知）タイミングの見直し 等

R6.1.19 令和5年出水期振り返りワーキング

- ・ 令和5年度出水を踏まえたタイムラインの発動状況・振り返り
- ・ **突発豪雨等**を想定した「運用方法」へのタイムライン発動（通知）等

R7.1.15 令和6年出水期振り返りワーキング

- ・ 令和6年度出水を踏まえたタイムラインの発動状況・振り返り
- ・ **タイムライン発令基準の追加等**

R8.3.30 令和7年出水期振り返りワーキング（今回）

- ・ 令和7年度出水を踏まえたタイムラインの発動状況・振り返り

■ 主な災害・出来事

- H30.7 平成30年7月豪雨
- H31.3 避難情報に関するガイドラインの改定（警戒レベルの設定）
- R1.8 芦田川水害TL作成・公表

芦田川水害タイムライン
《令和元年度版》



- R1.9 令和元年台風第15号（房総半島台風）
- R1.10 令和元年台風第19号（東日本台風）
- R2.7 令和2年7月豪雨
- R3.5 災害対策基本法改正
- R4.6 洪水予報（氾濫危険情報）の発表基準の変更（追加）

今回の振り返りワーキングの目的

○今年度の出水期（概ね梅雨期～秋雨期の終わりごろまで）における防災対応（出水対応）に関し、アンケートにおいて確認した課題や改善点・好事例（うまくいった対応）等を関係機関間で共有し、今後の芦田川水害タイムラインの運用や内容の改善に向けた意見交換を目的とする

<今回の振り返りで議論するテーマ>

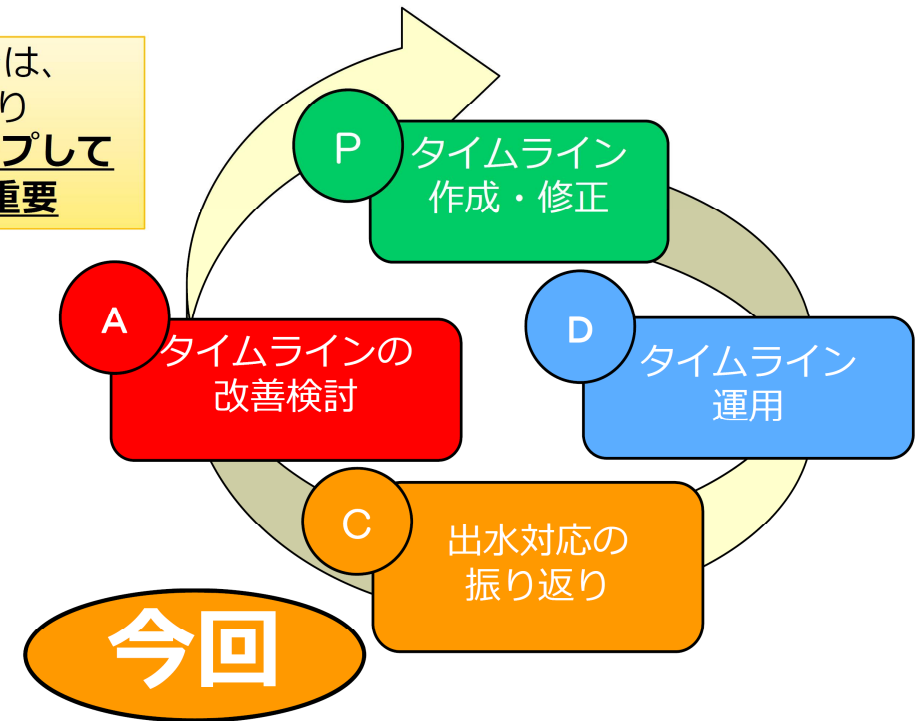
テーマ1：

- ・既往の振り返り事項を踏まえた今年度の出水対応について
 - －早めの体制確立
 - －他機関や機関内における情報共有
 - －今年度実施したタイムライン運用方法の見直しについて

テーマ2：

- ・予測水位を踏まえた洪水予報（トリガー情報）発表時のタイムラインレベルの取扱いについて

タイムラインは、
PDCAにより
スパイラスアップして
いくことが重要



→タイムラインは策定後の見直しの継続により効果を発揮するシステムであり、今年度の見直しも含め、次年度以降も引き続き関係機関による不断の精査・検討が重要となる

2. 令和7年出水期の概要

2025年の台風状況

- 2025年の台風は、7～8月において接近数および上陸数が平年値を上回った。
- 一方、年間の上陸数（R7年12月24日現在）は、平年並みであった。

平年値

1991年から
2020年までの
30年平均

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
発生数（注1）	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
接近数（注2）				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
上陸数（注3）					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0

2025年

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
発生数（注1）						2	7	5	6	4	3		27
接近数（注2）						1	5	4	1	2	1		13
上陸数（注3）							1	1	1				3

赤字：平年値（1991年～2020年の30年平均）と同値・上回るもの

（注1）「発生」は協定世界時(UTC)を基準にしています。

（注2）「接近」は台風が中心が国内のいずれかの気象官署から300 km以内に入った場合を指します。

（注3）「上陸」は台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指します。

出典：気象庁 台風の統計資料 <https://www.data.jma.go.jp/typhoon/statistics/index.html>

「台風の平年値」、「台風の発生数」、「台風の接近数」、「台風の上陸数」（2025年12月24日現在）

今年の大雨の発生状況

○今年、福山市及び府中市において大雨警報が発表される大雨が何度か発生したが、タイムライン運用基準に到達する大雨は無く、タイムラインの発動はなかった。

■令和7年出水期の大雨警報発表状況

No.	警報	福山市	府中市	発表時刻	解除時刻	日雨量 (mm)	
1	大雨警報（浸水害）	○	－	2025/6/26 5:02	2025/6/26 6:50	福山	7.0
						府中	34.0
						世羅	12.5
2	大雨警報（浸水害）	○	－	2025/8/7 7:19	2025/8/7 9:03	福山	34.0
						府中	34.0
						世羅	44.0
3	大雨警報（浸水害）	○	○	2025/8/8 15:04	2025/8/8 18:08	福山	28.0
						府中	46.0
						世羅	1.0

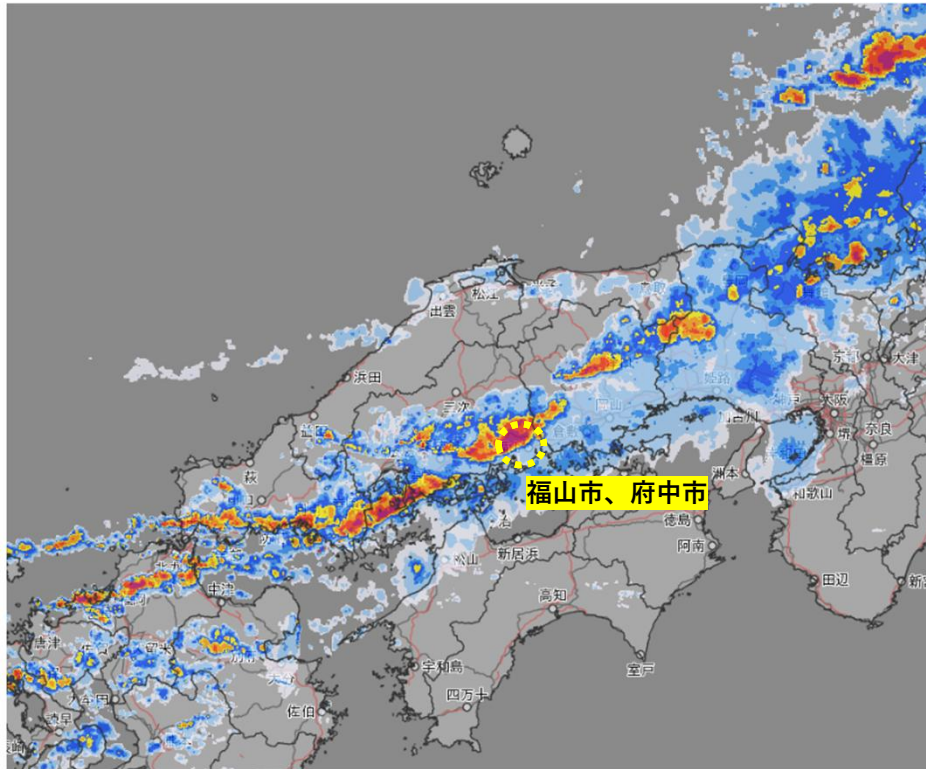
■参考：今年の大雨で体制発令しなかった理由（福山河川国道事務所）

- 福山河川国道事務所での体制発令基準は、「福山市または府中市において大雨警報が発表された場合」もしくは「事務所長が必要とした場合」である。
- 今年の出水期には、雨域通過後に警報が発表されたことや、水位上昇の見込みがある規模の雨では無かったことを踏まえ体制を発令しなかった。

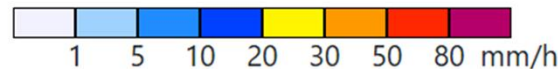
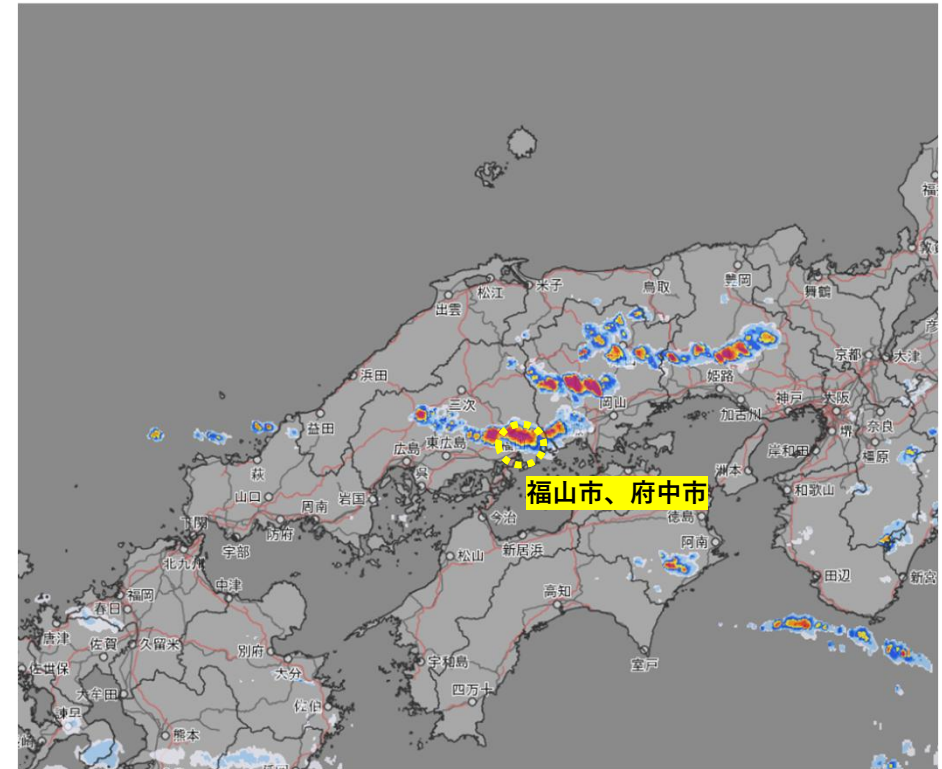
令和7年8月7日～8日の大雨

- 8月6日から8月12日にかけて、日本付近に停滞した前線や前線上の低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、北日本から西日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定な状況が続いた。
- 全国では、石川県や鹿児島県等で線状降水帯が発生し、平年の月降水量の3倍以上となった所もあった。
- 福山市、府中市においても、8月7日から8月8日にかけて大雨が発生し、福山・府中・世羅観測所において日雨量30～40mmの降雨を記録した。

令和7年8月7日 06：55時点



令和7年8月8日 14：55時点



大雨災害発生の危険性が急激に高まっている線状降水帯の雨域
(現在時刻の解析)

大雨災害発生の危険性が急激に高まっている線状降水帯の雨域
(10～30分先の解析)

出典：気象庁 過去の主な災害時の情報発表資料 <https://www.data.jma.go.jp/review/>

参考：内閣府 令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨に係る被害状況等について <https://www.bousai.go.jp/updates/r70806ooame/index.html>

3. 振り返りアンケート結果

アンケートの概要

- 令和7年の出水対応を振り返るため、アンケートを実施
- 回答率：56.7% （17機関/30機関）

ご回答頂いた皆様、
ご協力ありがとうございました。

『アンケート内容』

I.今年の出水対応について

設問1：今年の出水対応状況

設問2：今年の出水対応でうまくいったこと・いかなかったこと

設問3：タイムラインに関する課題・改善案

II.タイムラインに関わる変更点の有無について

設問1：各機関の防災計画等の変更に伴うタイムラインへの反映要否 ⇒いずれの機関からも意見無し

III.タイムラインポータルサイトについて

設問1：マルチ画面の利用状況

設問2：リンク集の利用状況

IV.自由意見

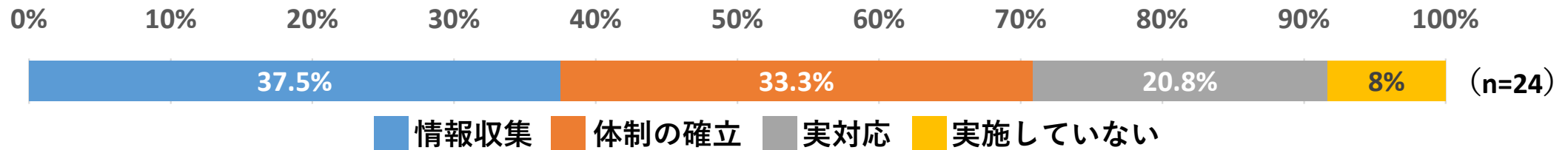
設問1：タイムラインに関する意見・要望

I. 今年の出水対応について

①各機関の対応内容

設問1：今年の出水期にはタイムライン運用基準に到達する出水はありませんでしたが、大雨警報が発表される規模の大雨が何度か発生しました。大雨の際に自機関の防災計画またはマニュアルに基づき、どのような出水対応を行いましたか。

- 9割の機関がいずれかの出水対応（情報収集、体制の確立、実対応）を実施した。
- そのうち2割の機関では実対応を実施した。（関係機関との情報共有や通行止め等）



分類	回答機関	具体的な対応内容
情報収集	福山市、広島県警察本部、エフエムふくやま、広島県危機管理課、福山河川国道事務所	・ 雨雲の進路予測を確認した。
	福山市	・ 河川の水位情報を確認した。
	福山市、府中市	・ 降雨の状況並びに浸水等の市内の被害情報の収集
	陸上自衛隊	・ 前線及び台風等、大雨に係る事象の予測されるタイミングで、中国地方への影響等を確認、関係部隊に対し事前に情報提供
	福山河川国道事務所	・ 関係機関にタイムラインの発出有無についてメールにて情報共有
体制の確立	福山市、府中市	・ 警戒体制をとるとともに災害警戒本部を設置した。
	広島県警察本部	・ 広島県警察本部及び警報が発表された地域の管轄警察署において、災害警備情報連絡室を設置
	福山地区消防組合、広島県危機管理課、八田原ダム管理所	・ 警戒体制の確立
	陸上自衛隊	・ 災害発生を予期し、派遣体制を事前に確立
	NTT西日本	・ 中国災対にてオンコール体制を確立し、気象情報収集を実施し情報連携を実施 ・ 通信サービス状況（故障・異常有無等）とあわせて、社内関係各所に情報連携を実施
実対応	福山市	・ 市道の通行止め
	広島県警察本部	・ 110番通報等に対する事案対応
	広島県危機管理課	・ 被害情報とりまとめ、市町への助言
	広島県東部建設事務所	・ 当所策定の水防勤務要領に基づき、水防班の出動、雨量・水位の監視、関係機関の連絡対応等を行った。
	広島地方気象台	・ 今年度は上記警報の発表以外にも、気象解説と担当職員間でのホットラインについて、おおむね適切に対応することができた。
実施していない	陸上自衛隊	・ 規則上「土砂災害警戒情報」以上から対応のため未実施

I.今年の出水対応について

②うまくいったこと

設問2：今年の出水対応全般を振り返って、うまくいったこと、うまくいかなかったこと、その要因をご記入ください。

○事前の行動項目の確認や関係機関との情報共有により、**早めの対応を実施できた**という回答が多い。

<うまくいったこと>

分類	回答機関	うまくいったこと	要因
行動項目の確認	福山市	自機関の行動項目の確認	・ 次の行動がより 明確になった 。
体制の確立	府中市	初動体制の確立	・ タイムラインの発動により、 円滑に初動体制を確立 することができた。
	広島県警察本部	迅速な体制の確立	・ 通達により、 体制設置の基準を明確 にしていた。 ・ 各々、常時連絡が取れるようにするなど、有事即応体制を確立していた。 ・ 気象台から聞き取った気象情報を県下警察署に共有し、 迅速な体制確保 を図った。
	広島県危機管理課	自機関の体制の確立	・ 早めの気象情報の収集 等適切に行えたため。
	陸上自衛隊	災害を予期した体制確立	・ 逐次の情報提供と共有
	NTT西日本	自機関の早期の体制確立	・ 中国災対にて オンコール体制を確立 し、気象情報や通信サービス状況（故障・異常有無等）を把握し、社内災害対応組織へ 情報連携 を実施
	福山河川国道事務所	体制確立の臨機応変な判断	・ 予測システム を使用した気象情報の収集を行った。
情報提供	エフエムふくやま	番組での情報提供	・ アンダーパス浸水などの情報を得ることができ、 告知できた 。
	広島県東部建設事務所	水防班への気象予報の事前提供	・ 大雨等が見込まれる際には気象台への事前聞取が県庁から配信されるため、 水防班へ適時情報し円滑な出動 につなげた。
	八田原ダム管理所	関係機関への迅速な情報伝達	・ 今年度より、 洪水予警報等作成システム を本格運用したこと。
実対応	広島地方気象台	実対応	・ ホットラインを実施し、 気象解説を適切に実施 できた。

I.今年の出水対応について

③うまくいかなかったこと、課題

設問2：今年の出水対応全般を振り返って、うまくいったこと、うまくいかなかったこと、その要因をご記入ください。

設問3：今年の出水対応全般を踏まえて、タイムラインに関して「課題と感じた対応」や「改善が必要と感じたツール」はありますか。

○情報共有のタイミングやリスク周知方法について意見が挙げられた。

<うまくいかなかったこと>

回答機関	うまくいかなかったこと	要因
NTT西日本	NTT通信ビルの水防板設置判断	- 河川氾濫やビル浸水リスクが発生した際に、NTT通信ビルの水防板等を設置して通信設備・局舎の防備を実施するが、通信ビルの状況によっては2～3日前には設置準備を開始する必要がある。 - そのため現状の発報タイミングでは判断のボーダーラインを越えてしまうため、独自の判断で水防板等の設置判断を行う必要がある。

<課題と感じた対応>

回答機関	課題	理由
NTT西日本	情報共有	水防板の設置判断にN-2～3日には判断する必要があるためタイムライン発報もしくはリスク情報の提供を前倒しできないか、検討いただきたい。
府中市	住民・利用者・社員等に対する水害リスクの周知啓発方法	複数のツールを用いて住民に情報発信を行っているが、確実な発信方法は検討の必要があると感じている。

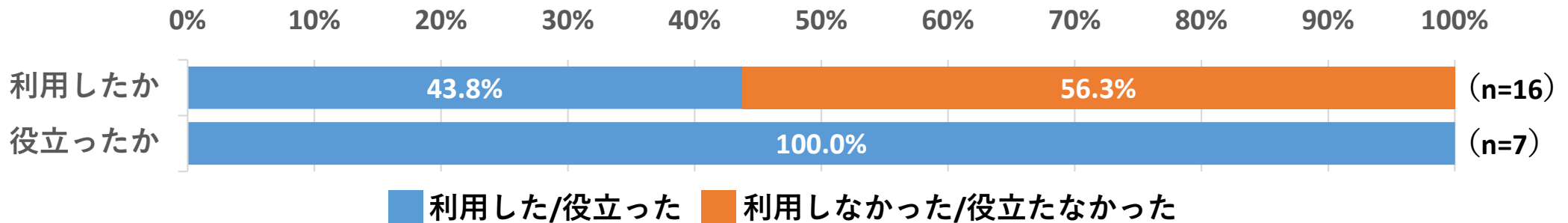
Ⅲ.タイムラインポータルサイトについて

①マルチ画面の利用状況

設問1：今年の出水対応時にポータルサイトの**マルチ画面**を利用しましたか。

利用した場合は、役立ったかどうかを選択してください。また、その回答理由や改善要望等をご記入ください。

○4割の機関が利用し、役立ったと回答。



<回答理由>

分類	回答機関	回答理由
利用した/役立った	府中市	・ 河川カメラを一画面で閲覧することができ、災害時に有用だから。
	中国電力ネットワーク	・ 1画面で複数の「気象情報」を収集できる。
	エフエムふくやま	・ 降水量が増える予測が出た場合は、常に閲覧・活用しています。
	広島県東部建設事務所	・ 一覧性が高くカスタム可能なので必要な情報が見やすい。
利用しなかった	広島県危機管理課	・ 広島県防災情報システムと確認できる内容が被っているため。
	広島県道路河川管理課	・ 必要なサイトはタブで開いていたため。

<改善要望>

分類	回答機関	改善要望
利用した/役立った	府中市	・ 県及び市が設置しているカメラ画像も見れるようになれば、さらに有用となる。
	NTT西日本	・ 小さい画面だと5枠の情報がすべて小さく中身がとても見づらいので、3枠と5枠など枠数を切り替えられるようにしていただくと大変使いやすいかと思いました。
	広島地方気象台	・ 海水温に変えて、「今後の雨」（軽量版でも可）や「雨雲の動き」のページの方が、利用者に今後の大雨の様子が伝わりやすいと感じた。 ・ 「早期注意情報」のページについても将来の大雨の危険性を理解する意味で必要だと感じた。

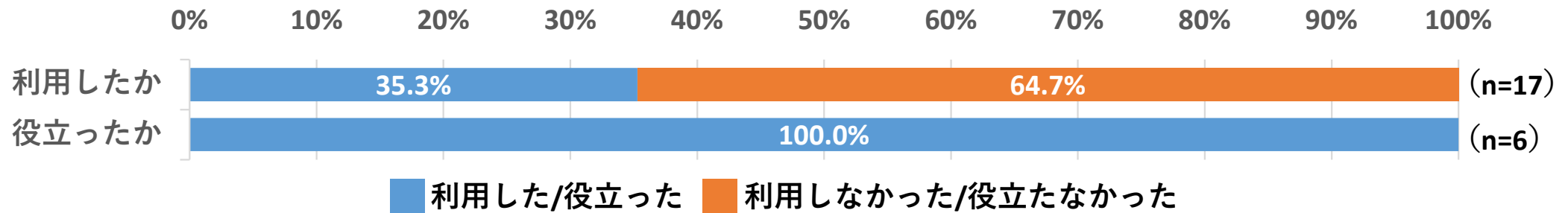
Ⅲ.タイムラインポータルサイトについて

②リンク集の利用状況

設問1：今年の出水対応時にポータルサイトのリンク集を利用しましたか。

利用した場合は、役立ったかどうかを選択してください。また、その回答理由や改善要望等をご記入ください。

○4割の機関が利用し、役立ったと回答。



<回答理由>

分類	回答機関	回答理由
利用した/役立った	府中市	・ 防災情報のリンクが集約されており、使いやすいため。
	中国電力ネットワーク	・ 1画面で各種防災情報のリンクが整理されており、使い勝手が良い。
	エフエムふくやま	・ 情報量が多いほど良いので必ず活用しています。
	福山河川国道事務所	・ 災害対応に必要なサイトのリンクが項目ごとに整理されているので、情報収集の際に求めている情報を容易に見つけることができた。
利用しなかった	広島県危機管理課	・ 広島県防災情報システムと確認できる内容が被っているため。
	広島県道路河川管理課	・ 当課の業務上必要なサイトは別途ブックマーク等していたため。
	広島県東部建設事務所	・ 水防関係先を網羅しているリンク集は有用なので引き続き整備してほしい。

<改善要望>

分類	回答機関	改善要望
利用した/役立った	NTT西日本	・ リンク集がすべて同じフォント色なのでフォント色を分けていただけるとより見やすくなるのではと感じました。
	広島地方气象台	・ リンク集内の「気象に関する情報」において、気象庁HPの「広島県の天気予報」と「気象情報」があれば、天気の概況や今後の天気の予報などを確認でき、利用者に役立てることができるのではないかと思います。

IV.自由意見

分類	回答機関	意見
ポータルサイトについて	NTT西日本	• 必要な情報が一つのサイトですべてそろう点は、危機管理業務においては非常に効果的です。 • 引き続き活用させていただきます。 (細かいUIの改善点については、他機関様のご意見も踏まえて、総合的にご判断願います。)
災害への備え	エフエムふくやま	• 今年は会議に参加がかなわず、申し訳ございませんでした。 • 災害は忘れたころにやってくる、を肝に銘じ万が一の場合に備えます。
	広島地方気象台	• 今後も引き続き、適切に防災気象情報の発信及び普及啓発を実施する。

4. 今後の予定

- 今回のワーキングの結果を踏まえ、令和8年度の水害タイムラインの運用方法（予測水位を踏まえた洪水予報発表時のタイムラインレベルの取扱い、タイムラインの解除基準の変更）を再度整理し、次年度出水期において運用
- 水害タイムラインの活用に向けた、読み合わせ検討会等の実施（令和8年の梅雨期直前（5月末頃）の実施を想定）

5. 関係機関等への伝達事項

防災気象情報に関する情報提供

- 現在、気象台が発令する警報及び注意報等は、市町村向けのアンケート調査の結果¹⁾、避難情報の建て増しにより、**避難情報と警戒レベルとの関係が複雑で分かりづらい**という課題がありました。
- 令和8年度出水期からの運用では、住民などが避難の判断をしやすくなるよう、避難情報と5段階の警戒レベルの対応を分かりやすくしました。

1) 防災気象情報に関する検討会(第7回)資料3 防災気象情報の名称について

現在の防災気象情報

避難行動	警戒レベル	洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害
		指定河川洪水予報	洪水害	大雨浸水害		
緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報	—	大雨特別警報(浸水害)	大雨特別警報(土砂災害)	高潮氾濫発生情報
避難指示 全員避難	4相当	氾濫危険情報	—	—	土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報
高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報(浸水害)	大雨警報(土砂災害)	警報に切り替える可能性が高い 高潮注意報
注意報 避難行動を確認	2相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報		高潮注意報

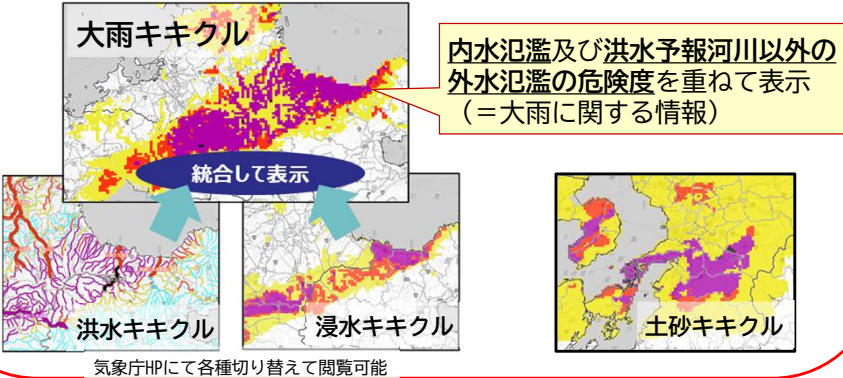
主な変更内容(河川氾濫・大雨に関する情報)

- ✓ 防災情報に「**レベル**」を表記、名称を統一
- ✓ **5段階の色**を表示し、視覚的にも分かりやすく改善
- ✓ 気象台による市町村毎の洪水警報・注意報を廃止
⇒ **河川の区分に応じて河川管理者及び気象庁より発表**
- ✓ 河川氾濫に関する情報に**レベル5相当の特別警報**を新設
- ✓ 大雨に関する情報に**レベル4相当の情報**を新設



キキクルの活用促進

- ✓ 平成30年豪雨では、芦田川本川からの氾濫だけでなく、**支川からの氾濫及び内水氾濫により浸水が発生**
- ✓ 避難情報は市町村毎であるため、**危険度が高い地域を把握**しておくことが重要



令和8年度出水期～防災気象情報の改善

避難行動	警戒レベル	河川氾濫 洪水予報河川及び 水位周知河川 ²⁾ の外水氾濫	大雨 内水氾濫及び 洪水予報河川以外 の外水氾濫	土砂災害 急傾斜地の崩壊や 土石流	高潮 海水面上昇や 波の打上げによる浸水
緊急安全確保	5	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
避難指示 全員避難	4	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
高齢者等避難	3	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
注意報 避難行動を確認	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報

赤字：防災情報の改善により新設、更新された内容
2) 水位周知河川は洪水予報河川への移行を促進。当面は大雨に関する情報でも扱う